

〔論文〕

パリ2024オリンピックに向けた3人制バスケットボールの 代表強化戦略に関する研究

—世界転戦と競技成績の関係—

金澤 篤志・佐々木 瑛・成田 真一

名古屋学院大学・金沢工業大学・名古屋学院大学

要 旨

本研究は、パリ2024オリンピックにおける3人制バスケットボールの代表強化戦略として、「世界転戦」と「競技成績」との関係を経験蓄積を統計的に検討した。男女を問わず、当該大会の出場チームは不出場チームと比べ、FIBA3x3ワールドツアー（WT）またはFIBA3x3ウィメンズシリーズ（WS）への出場回数が多く、初出場からの経過期間も長かった。男子ではWT初出場以降の競技歴の長さが出場可否に直結し、女子ではWSおよび代表大会初出場後の経過期間の長さも有意に関連していた。一方、出場チーム間の順位では、出場回数の差は影響せず、男子はWTおよび代表大会初出場後の経過期間を通じた経験蓄積が順位に有意に関連したが、女子は短期的にチーム編成された個人能力の高い選手に依拠する傾向があった。さらに、今後はWSでスポンサー支援のコマーシャルチームが増えたり、大会数もWT並みに拡大したりすれば、女子も男子に近い傾向を示す可能性がある。これらの結果は、3人制バスケットボールの代表強化戦略において「世界転戦」がオリンピック出場権獲得および高い「競技成績」のために不可欠であり、男女で異なる強化策が必要であることを示唆する。

キーワード：パリ2024オリンピック，3x3，代表強化戦略，世界転戦，競技成績

A study on National Team development strategies for 3x3 Basketball toward the Paris 2024 Olympics:

The relationship between participation in multiple international tournaments and
competitive performance

Atsushi KANAZAWA, Hikaru SASAKI, Shinichi NARITA

Nagoya Gakuin University/Kanazawa Institute of Technology University/Nagoya Gakuin University

発行日 2026年1月31日

1. 緒言

1.1 研究の背景

3人制バスケットボール（以下「3x3」と略）は、周知の通り、2007年に国際バスケットボール連盟（以下「FIBA」と略）が、それまで各地でローカルルールのもとに行われていた3対3形式のストリートバスケットボールに対し、世界統一ルールを導入したことで誕生した種目である。それ以降、3x3はその統一ルールのもと、世界各地で国際大会が開催されるようになり、急速な発展を遂げてきた。こうした背景のもと、3x3は第32回オリンピック競技大会（2020／東京）（以下「東京2020」と略）で初めて公式種目として採用され、続く第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）（以下「パリ2024」と略）でも大きな注目を集める中で開催され、FIBA3x3はその手応えを強く感じている（FIBA, 2024）。さらに、国際オリンピック委員会はその成果を踏まえ、第34回オリンピック競技大会（2028／ロサンゼルス）（以下「LA2028」と略）において、3x3の出場枠を従来の男女各8チームから12チームへと拡大することを決定した（FIBA, 2025）。昨今、近代オリンピックにおいては大会規模の肥大化を懸念する声が聞かれる中、出場枠が拡大された3x3は、その発展とともに国際的に高い評価を受けていることが伺える。

元々、バスケットボールは3x3が誕生する以前から、5人制バスケットボール（以下、「5v5」と略）が世界的な人気を博していた。しかし、FIBAの3x3責任者（3x3 Managing Director）であるサンチェス氏によれば、FIBAはバスケットボールの更なる普及および発展を目指す中で、5v5では十分に取り込めていない層をターゲットに、3x3という新たな競技形式を制度設計してきたのである（FLY MAG編集部, 2024）。つまり、5v5と異なる3x3独特の制度にこそ、この種目の魅力があり、今日の3x3の発展を支える基盤の一つとなっていると考えられる。「ストリートからオリンピックへ」(FIBA, 2012) というスローガンは、FIBAが3x3をオリンピックの公式種目として採用させることを目指した際に掲げられたもので、世界各地で開催されるローカル大会から国際大会へ繋がる仕組みの中で、誰でも世界の舞台に立ち、世界一を目指せる可能性があるという理念を象徴している。

さて、このような3x3の大会設計は5v5とは大きく異なる。さらに、FIBAは各国を代表するエリート選手の強化およびオリンピックといった主要大会の出場権獲得においても、男子ではFIBA3x3 ワールドツアー（以下「WT」と略）、女子ではFIBA3x3 ウィメンズシリーズ（以下「WS」と略）といったプロイベントである世界最高峰ツアー大会での活動（プロサーキット参戦）を重要なキーとして喚起を促している（FIBA, 2022）。一方、5v5では各国を代表するようなエリート選手は、それぞれの国や地域のプロリーグで活動するのが一般的である。代表例としては、北米では男子のNBAや女子のWNBA、わが国では男子のBリーグや女子のWリーグ、ヨーロッパのドイツでは男女のバスケットボール・ブンデスリーガなどが挙げられる。しかし、3x3ではエリート選手の主な活動の場は、先述したWTやWSといった世界を舞台にした国際的なツアー大会の転戦、いわゆる「世界転戦」となるのである（日本バスケットボール協会, 2025a）。また、ローカル大会に出場している誰もが、国や地域を代表するエリート選手の活動の場である国際大会に出場する機会が設けられる制度となっており、世界的なエリート選手が、世界中のバスケットボールファンと直接繋がることのできる仕組み

も特徴的である。このような制度設計は、FIBAが目指すバスケットボールの更なる普及および発展のための世界戦略の一環であり、エリート選手の活動の場が国際的なツアー大会である「世界転戦」にあることが、5v5とは異なる3x3ならではの大きな魅力となっているのである。

1.2 先行研究の検討および本研究の目的

オリンピック憲章によれば、オリンピズムとは人類の生き方に関する哲学であり、その目的は、平和な社会を目指し、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである（日本オリンピック委員会, 2024, p. 9）。したがって、近代オリンピックにおける成功とは、単にメダルの獲得や好成績の達成だけに還元されるものではない。

しかし、国際的なメガイメントとして発展した近代オリンピックでは、大会前に各競技の優勝候補であるエリート選手が実際に優勝できるかをめぐって多様な憶測が飛び交い（Csurilla & Fertő, 2022, p. 5006）、メダル獲得や好成績の達成への注目が高まることは否定できない。それはスポーツファンに限らず世界中の人々を熱狂させる主要因の一つとなっているのも疑いようのない事実である。

こうした状況を背景に、各国政府は、国際的威信や経済的効果および社会的成果などの政治的利益を見込み、エリートスポーツ競技におけるメダル獲得や好成績の達成といった「競技成績」の成功に強い関心を寄せ、多額の公的資金をエリートスポーツ政策に投じている（Houlihan & Green, 2008, pp. 2-3; De Bosscher et al., 2024, p. 6）。さらに、多くの研究者が、この投資をいかに効率的にエリートスポーツ政策へ還元し、最適なパフォーマンスによる「競技成績」の成功を実現するかという決定要因について、様々な研究を展開していることが伺える。

例えば、Bernard & Busse（2004）は、経済学的分析を通じて、国家レベルにおいて人口規模および一人当たりGDPが高いほどオリンピックにおけるメダル獲得数の増加が統計的に予測されることを明らかにした。彼らは、オリンピックで競技成績の成功を収めるためには、利用可能な資源が重要な要因であることを指摘するとともに、開催国や共産主義国を典型とする旧ソ連の影響圏に属した国々が、メダル獲得数を押し上げる特性を有することにも言及している。

一方、Rewilak（2021）は、1992年以降のオリンピックが一層プロ化し、スポーツのグローバル化が顕著となった結果、多くの世界水準のアスリートがより拡大したスポンサー支援を受け、従来ほど母国からの資金援助に依存しなくなったことにより、一人当たりGDPの重要性が、オリンピックにおける「競技成績」の成功要因として低下していることを報告している。

また、Oakley & Green（2001）は、国家レベルのエリートスポーツ強化戦略においては、社会的・政治的・経済的要因への単なる対応よりも、エリートスポーツの強化方策そのものへの戦略的アプローチが重要であると主張する。これを踏まえ、De Bosscher et al.（2008）は、各国がエリート選手強化を戦略的に構築するようになるにつれ、人口規模や一人当たりGDPといった、スポーツ政策立案者が直接制御できないマクロレベルの要因への依存度が低下していると指摘する。さらに、近年のオリンピックにおける「競技成績」の成功には、国家政策に影響を与え、エリートスポーツ強化を可能にするメソレベルの要因が重視されるべきであるとし、その分析の枠組みとして、国際的なスポーツにおける「競技成績」の成功に繋がるエリートスポーツ投資の効率性とスポーツ政策の有効性を示す

指標である Sports Policy factors Leading to International Sporting Success (以下「SPLISS」と略)モデルを開発している (De Bosscher et al., 2015, p. 4)。

さて、日本バスケットボール協会は、パリ2024における3x3の大会総括および3x3男女日本代表チームの強化活動に関する報告書「3x3バスケットボール・テクニカルレポート2024」(日本バスケットボール協会, 2025)を取り纏めている。国際競技力の向上と社会的模範となる競技者育成を目指すエリートスポーツシステムを実現することは、国および中央競技団体の社会的使命である(船先ら, 2022, pp. 49-50)ことから、同報告書は、わが国の3x3競技力向上を目的としたエリートスポーツシステムとしての「強化戦略」に関わる貴重な資料であると位置づけられる。そして、その大会総括では、当該大会のキーワードの一つとしてチームの“一体感”を高める必要性が強調されており、オリンピック出場およびメダル獲得には、中長期的な強化戦略として、オリンピックと同等レベルの国際大会への出場機会をより増やしていく重要性が指摘されている(日本バスケットボール協会, 2025b)。また、同報告書の末尾でも、3x3男女日本代表チームを強化し、LA2028以降の大会出場およびメダル獲得のためにも日本人選手が「世界転戦」し、国際大会に継続的に出場することの必要性が改めて強調されている(日本バスケットボール協会, 2025a)。

パリ2024出場を目指した3x3男女日本代表チームは、いずれもFIBA3x3オリンピック最終予選2024で敗退し、本大会への出場を逃している(日本バスケットボール協会, 2024)。尚、同報告書は、3x3の魅力や楽しさの発信を主目的としており、統計的分析よりも主観的解釈を含む質的分析が中心である。そのため、3x3男女日本代表チームを含む各国代表チーム(パリ2024出場チームおよび不出場チーム)の「競技成績」と、オリンピックと同等レベルの国際大会への参加、すなわち「世界転戦」との関係性は十分に解明されていない。

一方で、SPLISSモデルの指標の一つである「国際大会への参加」が、「競技成績」の成功を達成するための効果的なエリートスポーツシステムの推進力となっている(De Bosscher et al., 2015, p. 15)のであれば、各国代表チームの「競技成績」と「世界転戦」との相関を統計的に検討する意義は大きいと言える。

近年の3x3研究を概観してみると、技術や戦術に関する研究(綱廣ら, 2021; Boros et al., 2022; 佐々木ら, 2021)、ゲーム分析に関する研究(Cote et al., 2019; Madarame, 2023)、トレーニング論に関する研究(袴田ら, 2022; Sansone et al., 2023)、学校体育における教材活用に関する研究(小谷ら, 2024; Yuzkovets & Krasov, 2024)など、多様な分野で知見が蓄積されている。また、初めて国際大会に出場した選手は、国際的な競技レベルと自身の競技パフォーマンスを比べる中で新たな目標設定を行うことができるという事例報告(小野寺, 2023)も、3x3で「世界転戦」を目指す選手や指導現場にとって有益である。一方で、これらの研究成果を国家政策に影響を与え、エリートスポーツとしての代表強化戦略に還元するためには、更なる継続検討が求められる。

さらに、Csurilla et al. (2023)は、5v5が試合結果の不確実性である運の影響を最も受けにくいスポーツの一つである一方で、3x3(特に男子)はこの運の要素を受けやすいことを明らかにし、この知見がスポーツガバナンスの意思決定者に役立つ可能性を示唆している。この特性と、国際大会参加が「競技成績」の成功を達するために効果的な推進力であるというSPLISSの示唆(De Bosscher et

al., 2015, p. 15) を踏まえるならば, 「世界転戦」による国際的な競技力向上は, 運の影響を相対的に軽減し得るエリートスポーツシステムの実現に向けた強化戦略になり得る。

したがって, 3x3 における国際大会への継続的参加としての「世界転戦」と, 国家およびスポーツファンの大きな関心事であるオリンピックにおける「競技成績」との関係性を明らかにすることは, 理論的にも実践的にも重要である。以上を踏まえ, 本研究は, パリ 2024 における 3x3 代表強化戦略に関する「競技成績」と国際大会への「世界転戦」との関係性を明らかにすることを目的とする。

2. 方法

2.1 対象チームおよび選手

本研究の対象は, 表 1 および表 2 の通り, パリ 2024 出場権をかけて各オリンピック予選フェーズに直接関与した男女計 49 チーム (男子 24 チーム, 女子 25 チーム) と, これに所属する計 196 名の選手 (男子 96 名, 女子 100 名) である (FIBA, n.d.a)。

対象チームの抽出は, 本大会出場権の獲得可否に直接関与した 4 つのオリンピック予選フェーズ, すなわち開催国枠とフェデレーションランキング (以下「NF ランク」と略) 上位枠, FIBA3x3 ユニバーサリティ・オリンピック予選 1 (以下「UOQT1」と略), FIBA3x3 ユニバーサリティ・オリンピック予選 2 (以下「UOQT2」と略), および FIBA3x3 オリンピック最終予選 (以下「OQT」と略) にて対象となったチームとした。ただし, 複数のフェーズに重複出場したチームについては, 本大会出場権をかけた最終フェーズに臨んだ際のメンバーを対象選手とした。また, 開催国枠および NF ランク上位枠により出場権を獲得したチームについては, UOQT1 開幕時点の 2024 年 4 月 12 日 (本大会開催の約 3 ヶ月前) には, おおよその最終メンバーが見込まれてたと推察されるため, 本大会の出場メンバーを対象選手とした。

尚, 競技成績について, パリ 2024 出場チームは, 各々の本大会順位を最終成績とした。一方で, パリ 2024 不出場チームは, 各々ともに予選敗退を最終成績とした。

表 1 パリ 2024 出場をかけた各予選フェーズに直接関与した男子 24 チーム (選手 96 名)

No	チーム (Zone)	予選成績	最終成績	最終メンバー (選手名)
1	セルビア (ヨーロッパ)	NF ランク 1 位	5 位	M. Brankovic D. Majstorovic S. Stojacic M. Vasic
2	アメリカ (アメリカ)	NF ランク 2 位	7 位	C. Barry J. Fredette K. Maddox D. Travis

3	中国 (アジア/オセアニア)	NF ランク 3位	8位	W. Lu N. Zhang J. Zhao Y. Zhu
4	ラトビア (ヨーロッパ)	UOQT1 1位	4位	F. Lacis A. Čavars N. Miezis Z. Raimo
5	オランダ (ヨーロッパ)	UOQT2 1位	1位	J. Driessen A. Slagter W. de Jong D. van der Horst
6	リトアニア (ヨーロッパ)	OQT 1位	3位	E. Džiaugys G. Matulis A. Pukelis Š. Vingelis
7	フランス (ヨーロッパ)	OQT 2位	2位	R. Wilson J. Rambaut F. Seguela T. Vergiat
8	ポーランド (ヨーロッパ)	OQT 3位	6位	A. Bogucki F. H. Matczak M. A. Sokolowski P. Zamojski
9	モンゴル (アジア/オセアニア)	OQT 4位	予選敗退	A. Ariunbold D. Davaasambuu D. Enkhbat E. Onolbaatar
10	オーストリア (ヨーロッパ)	OQT 5位	予選敗退	T. Blazan N. Kaltenbrunner M. Linortner F. Söhnle
11	ドイツ (ヨーロッパ)	OQT 6位	予選敗退	D. Agyeman S. Beikame L. Fertig F. Giessmann
12	イスラエル (ヨーロッパ)	OQT 7位	予選敗退	N. Artzi T. Cohen G. Noyovitch O. Sadeh

パリ 2024 オリンピックに向けた 3 人制バスケットボールの代表強化戦略に関する研究

13	スペイン (ヨーロッパ)	OQT 8位	予選敗退	J. Beiran C. Martinez U. Mendicote F. Niang
14	日本 (アジア/オセアニア)	OQT 9位	予選敗退	T. Kennedy K. Mitani R. Ozawa R. Yasuoka
15	スイス (ヨーロッパ)	OQT 10位	予選敗退	J. Dubas N. Jurkovitz M. Lehmann G. Martin
16	プエルトリコ (アメリカ)	OQT 11位	予選敗退	L. Allende L. Cuascut A. Ocasio A. Ralat
17	マダガスカル (アフリカ)	OQT 12位	予選敗退	E. Randriamampionona A. Rasolomanana L. Ratianarivo A. Solondrainy
18	ハンガリー (ヨーロッパ)	OQT 13位	予選敗退	A. Demeter T. Ivosev L. Komma U. Rosic
19	カナダ (アメリカ)	OQT 14位	予選敗退	J. Desrosiers B. Gill A. Johnson K. Mcknight
20	エジプト (アフリカ)	OQT 15位	予選敗退	R. Abdallah I. Hesham A. Y. A. A. Mohamed Y. Refaat
21	ベルギー (ヨーロッパ)	OQT 16位	予選敗退	B. De Valck D. Donkor J. Foerts T. Vervoort
22	ブラジル (アメリカ)	UOQT2 7位	予選敗退	L. Branquinho A. Ferros M. Parcial D. Von Haydin

23	ニュージーランド (アジア/オセアニア)	UOQT1 4位	予選敗退	D. Kelman-Poto C. McIntosh N. Mccullough A. Tonge
24	香港 (アジア/オセアニア)	UOQT1 8位	予選敗退	L. Tsoi O. Xu R. Yang S. H. Yeung
計24チーム				計96名

表2 パリ2024出場をかけて各予選フェーズに直接関与した女子25チーム（選手100名）

No	チーム (Zone)	予選成績	最終成績	最終メンバー (選手名)
1	フランス (ヨーロッパ)	開催国枠	8位	M. Djekoundade L. Guapo H. Limouzin M. Paget
2	中国 (アジア/オセアニア)	NFランク 1位	6位	M. Chen J. Wan L. Wang Z. Zhang
3	アメリカ (アメリカ)	NFランク 2位	3位	C. Burdick D. Hamby R. Howard H. Van Lith
4	アゼルバイジャン (ヨーロッパ)	UOQT1 1位	7位	T. Hayes A. Mollenhauer D. Ulyanova M. Walker
5	オーストラリア (アジア/オセアニア)	UOQT2 1位	5位	A. Maley L. Mansfield M. Whittle A. Wilson
6	スペイン (ヨーロッパ)	OQT 1位	2位	G. A. De Armiño J. Camilion V. Gimeno S. Ygueravide
7	ドイツ (ヨーロッパ)	OQT 2位	1位	S. Brunckhorst S. Greinacher L. Rodefeld M. Reichert

パリ 2024 オリンピックに向けた 3 人制バスケットボールの代表強化戦略に関する研究

8	カナダ (アメリカ)	OQT 3位*	4位	K. Bosch P. Crozon K. Plouffe M. Plouffe
9	ハンガリー (ヨーロッパ)	OQT 4位	予選敗退	V. Böröndy V. Kiss K. Papp F. Szabó
10	ポーランド (ヨーロッパ)	OQT 5位	予選敗退	M. L. Kastanek K. Sosnowska W. Telenga A. Ziemborska
11	日本 (アジア/オセアニア)	OQT 6位	予選敗退	K. Miyashita T. Nakada S. Takada M. Takahashi
12	イタリア (ヨーロッパ)	OQT 7位	予選敗退	C. Consolini R. D'Alie S. Madera L. Spreafico
13	チェコ (ヨーロッパ)	OQT 8位	予選敗退	K. Galícková A. Levínská A. Rylichová K. Suchanová
14	オランダ (ヨーロッパ)	OQT 9位	予選敗退	L. Bettonvil J. Boonstra N. Driessen Z. Slagter
15	リトアニア (ヨーロッパ)	OQT 10位	予選敗退	M. Grigalauskyte G. Labuckiene K. Nacickaite G. Sulske
16	ウクライナ (ヨーロッパ)	OQT 11位	予選敗退	K. Filevych A. Liashko O. Mollova M. Uro-Nilie
17	チリ (アメリカ)	OQT 12位	予選敗退	C. Abuyeres J. Ljubetic Z. Morrison F. Ovalle

18	モンゴル (アジア/オセアニア)	OQT 13位	予選敗退	A. Bat-Erdene B. Murat K. Onolbaatar B. Tsendjav
19	イスラエル (ヨーロッパ)	OQT 14位	予選敗退	M. Revahe D. Saar N. Shalom T. Yakov
20	エジプト (アフリカ)	OQT 15位	予選敗退	H. Amer H. Hatem R. Mohamed M. M. S. M. Sadek
21	チュニジア (アフリカ)	OQT 16位	予選敗退	R. Abidi S. Dridi M. Mallat M. Trabelsi
22	ブラジル (アメリカ)	UOQT2 3位	予選敗退	C. Santos V. Marcelino T. Silva L. de Souza
23	オーストリア (ヨーロッパ)	UOQT2 7位	予選敗退	A. Allesch A. Fuchs-Robetin R. Kalaydjiev I. Orekhova
24	ケニア (アフリカ)	UOQT2 8位	予選敗退	N. Mwangale M. Okot V. Reynolds M. Wanyama
25	香港 (アジア/オセアニア)	UOQT1 8位	予選敗退	T. K. Li T. F. Ma H. L. Tong C. W. Ping
計25チーム				計100名

2.2 対象大会

本研究では、FIBA（2022）がプロサーキット参戦をオリンピック出場権獲得における重要な要素として位置づけている点を踏まえ、男子はWT、女子はWSを対象大会とした。

これに対し、オリンピックと同等の競技レベルである代表チームが参加するFIBA3x3ワールドカップや各大陸別のエリアカップは、全チームに均等な出場機会が与えられているため、「世界転戦」としての継続的参加を示す指標としては不適切であると判断し除外した。

さらに、FIBA3x3 スーパークエストやFIBA3x3 スーパーリーグ等の国際大会についても、開催実績が浅く、FIBAにおいてもプロイベントとして位置づけられていないことから除外した。

2.3 データの収集方法

対象チームおよび選手のデータは、FIBA公式サイトであるFIBA3x3 Planet (FIBA, n.d.b) に公開されている大会出場履歴から収集した。

2.4 測定指標

本研究では、対象チームおよび選手の国際大会における継続的参加実績を把握するためにWTおよびWSへの出場実績を主要な指標として設定した。具体的には、選手単位の「WTまたはWSの出場回数」を算出するとともに、チーム単位では所属選手4名の出場回数を総和した値を用いた。これにより、選手個人の出場実績からチーム全体としての国際経験を定量的に評価した。

出場回数の集計期間については、次の2通りを設定した。第1に、対象選手がWTまたはWSに初出場した時点を起点とするものであり、これは選手の「競技歴全体」を通じた国際大会での継続的参加実績を捉えるものである。第2に、「東京2020閉幕翌日」の2021年7月29日を起点とするものであり、これはオリンピック開催サイクルを考慮しつつ、「競技成績」と3x3代表強化戦略との関連を検討する上で有効である。いずれの場合も、終了時点は本大会が開催された2024年最初の予選フェーズであるUOQT1開幕前日の2024年4月11日とした。すなわち、本研究における「WTまたはWSの出場回数」の対象期間は以下の2区分となる。

①競技歴全体：対象選手の3x3競技開始時点～2024年4月11日

②東京2020後：2021年7月29日（東京2020閉幕翌日）～2024年4月11日

さらに、競技歴を通じた競技力向上の過程を把握する観点から、国際大会における初出場を基準とした「経過月数」を測定する指標を設定した。具体的には次の2通りである。第1に、WTおよびWSに初出場した時点からの「経過月数」である。この設定は、WTといった世界最高峰ツアー大会への初出場が、選手にとって国家を代表するマインドセットの形成を促し、自己省察を経て再び国際舞台で戦うことを志向した新たな目標設定の契機となることが指摘されている点（小野寺, 2023, pp. 371-373）に基づくものであり、競技歴を定量的に把握する上で妥当である。第2に、WTおよびWSに限らず、オープンカテゴリーやアンダーカテゴリーを含むFIBA3x3代表大会に初出場した時点からの「経過月数」である。実際に国家代表として国際大会に出場する経験もまた、選手のマインドセット形成や競技力向上に資する重要な契機となると考えられるため、これを含めて定量化することは妥当であると判断した。いずれの場合も、終了時点はUOQT1開幕前日の2024年4月11日とした。チーム単位の競技歴についても同様に、所属選手4名の「経過月数」を総和した値を用いた。すなわち、本研究における「国際大会初出場後の経過月数」の対象期間は以下の2区分である。

①WT / WS 初出場後：WT または WS 初出場時～2024年4月11日

②代表大会初出場後：WT または WS もしくは代表大会の初出場時～2024年4月11日

以上より、本研究で用いた測定指標は以下の4項目である。

①選手単位のWT/WS出場回数（表3, 表4）

②チーム単位のWT/WS出場回数（表5, 表6）

③選手単位の3x3国際大会初出場後の経過月数（表7, 表8）

④チーム単位の3x3国際大会初出場後の経過月数（表9, 表10）

表3 選手単位のWT出場回数（男子）

No	最終メンバー (選手名)	最終成績	WT 出場回数 (競技歴全体)	WT 出場回数 (東京2020後)
1	M. Brankovic		75	43
2	D. Majstorovic	5位	113	43
3	S. Stojacic		68	44
4	M. Vasic		90	40
5	C. Barry		24	22
6	J. Fredette	7位	12	12
7	K. Maddox		46	26
8	D. Travis		20	20
9	W. Lu		11	11
10	N. Zhang	8位	11	11
11	J. Zhao		12	12
12	Y. Zhu		11	11
13	F. Lacic		2	2
14	A. Čavars	4位	77	32
15	N. Mieziš		89	40
16	Z. Raimo		1	1
17	J. Driessen		34	31
18	A. Slagter	1位	36	32
19	W. de Jong		26	25
20	D. van der Horst		70	36
21	E. Džiaugys		22	20
22	G. Matulis	3位	14	10
23	A. Pukelis		58	38
24	Š. Vingelis		34	15

パリ 2024 オリンピックに向けた3人制バスケットボールの代表強化戦略に関する研究

25	R. Wilson		13	6
26	J. Rambaut		19	17
27	F. Seguela	2位	31	28
28	T. Vergiat		7	6
29	A. Bogucki		12	12
30	F. H. Matczak		0	0
31	M. A. Sokolowski	6位	0	0
32	P. Zamojski		23	19
33	A. Ariunbold		30	19
34	D. Davaasambu		67	33
35	D. Enkhbat	予選敗退	58	27
36	E. Onolbaatar		36	22
37	T. Blazan		0	0
38	N. Kaltenbrunner		23	22
39	M. Linortner	予選敗退	37	36
40	F. Söhnel		0	0
41	D. Agyeman		3	3
42	S. Beikame		3	3
43	L. Fertig	予選敗退	9	9
44	F. Giessmann		0	0
45	N. Artzi		5	5
46	T. Cohen		4	4
47	G. Noyovitch	予選敗退	1	1
48	O. Sadeh		2	2
49	J. Beiran		0	0
50	C. Martinez		30	30
51	U. Mendicote	予選敗退	0	0
52	F. Niang		0	0
53	T. Kennedy		0	0
54	K. Mitani		0	0
55	R. Ozawa	予選敗退	9	9
56	R. Yasuoka		7	5
57	J. Dubas		14	14
58	N. Jurkovitz		22	12
59	M. Lehmann	予選敗退	62	32
60	G. Martin		62	30
61	L. Allende		14	14
62	L. Cuascut		14	14
63	A. Ocasio	予選敗退	15	15
64	A. Ralat		16	16

名古屋学院大学論集

65	E. Randriamampionona		2	2
66	A. Rasolomanana		0	0
67	L. Ratianarivo	予選敗退	2	2
68	A. Solondrainy		2	2
69	A. Demeter		7	2
70	T. Ivosev		29	0
71	L. Komma	予選敗退	1	1
72	U. Rosic		2	2
73	J. Desrosiers		6	6
74	B. Gill		27	10
75	A. Johnson	予選敗退	22	18
76	K. Mcknight		3	3
77	R. Abdallah		1	1
78	I. Hesham		2	2
79	A. Y. A. A. Mohamed	予選敗退	0	0
80	Y. Refaat		0	0
81	B. De Valck		34	32
82	D. Donkor		27	27
83	J. Foerts	予選敗退	29	22
84	T. Vervoort		44	40
85	L. Branquinho		6	2
86	A. Ferros		7	2
87	M. Parcial	予選敗退	1	1
88	D. Von Haydin		0	0
89	D. Kelman-Poto		0	0
90	C. McIntosh		2	2
91	N. Mccullough	予選敗退	1	1
92	A. Tonge		0	0
93	L. Tsoi		3	2
94	O. Xu		1	1
95	R. Yang	予選敗退	0	0
96	S. H. Yeung		1	1
			Ave. 19.4	Ave. 12.8

表4 選手単位のWS出場回数(女子)

No	最終メンバー (選手名)	最終成績	WT 出場回数 (競技歴全体)	WT 出場回数 (東京2020後)
1	M. Djekoundade		8	7
2	L. Guapo	8位	19	10
3	H. Limouzin		11	11
4	M. Paget		16	5
5	M. Chen		5	5
6	J. Wan	6位	10	10
7	L. Wang		11	11
8	Z. Zhang		18	11
9	C. Burdick		13	13
10	D. Hamby	3位	0	0
11	R. Howard		0	0
12	H. Van Lith		3	3
13	T. Hayes		0	0
14	A. Mollenhauer	7位	15	15
15	D. Ulyanova		15	15
16	M. Walker		11	11
17	A. Maley		1	1
18	L. Mansfield	5位	1	1
19	M. Whittle		1	1
20	A. Wilson		0	0
21	G. A. De Armiño		8	7
22	J. Camilion	2位	6	6
23	V. Gimeno		16	9
24	S. Ygueravide		19	14
25	S. Brunckhorst		14	13
26	S. Greinacher	1位	20	19
27	L. Rodefeld		20	19
28	M. Reichert		9	9
29	K. Bosch		14	14
30	P. Crozon	4位	24	17
31	K. Plouffe		22	14
32	M. Plouffe		20	14
33	V. Böröndy		13	11
34	V. Kiss	予選敗退	0	0
35	K. Papp		17	12
36	E. Szabó		7	7

37	M. L. Kastanek		0	0
38	K. Sosnowska		23	15
39	W. Telenga	予選敗退	2	2
40	A. Zięmborska		1	1
41	K. Miyashita		1	0
42	T. Nakada		2	2
43	S. Takada	予選敗退	2	2
44	M. Takahashi		1	1
45	C. Consolini		6	6
46	R. D'Alie		15	7
47	S. Madera	予選敗退	9	9
48	L. Spreafico		3	3
49	K. Galíčková		5	4
50	A. Levínská		10	7
51	A. Rylichová	予選敗退	9	9
52	K. Suchanová		0	0
53	L. Bettonvil		18	9
54	J. Boonstra		8	8
55	N. Driessen	予選敗退	9	8
56	Z. Slagter		7	6
57	M. Grigalauskyte		5	5
58	G. Labuckiene		3	3
59	K. Nacickaite	予選敗退	10	10
60	G. Sulske		13	13
61	K. Filevych		10	4
62	A. Liashko		5	5
63	O. Mollova	予選敗退	5	5
64	M. Uro-Nilie		2	2
65	C. Abuyeres		4	4
66	J. Ljubetic		3	3
67	Z. Morrison	予選敗退	2	2
68	F. Ovalle		2	2
69	A. Bat-Erdene		12	11
70	B. Murat		0	0
71	K. Onolbaatar	予選敗退	16	11
72	B. Tsendjav		0	0
73	M. Revahe		0	0
74	D. Saar		6	5
75	N. Shalom	予選敗退	0	0
76	T. Yakov		0	2

77	H. Amer		1	1
78	H. Hatem		0	0
79	R. Mohamed	予選敗退	5	5
80	M. M. S. M. Sadek		0	0
81	R. Abidi		0	0
82	S. Dridi		0	0
83	M. Mallat	予選敗退	0	0
84	M. Trabelsi		0	0
85	C. Santos		0	0
86	V. Marcelino		0	0
87	T. Silva	予選敗退	0	0
88	L. de Souza		0	0
89	A. Allesch		3	3
90	A. Fuchs-Robetin		12	11
91	R. Kalaydjiev	予選敗退	5	4
92	I. Orekhova		0	0
93	N. Mwangale		0	0
94	M. Okot		0	0
95	V. Reynolds	予選敗退	0	0
96	M. Wanyama		0	0
97	T. K. Li		0	0
98	T. F. Ma		0	0
99	H. L. Tong	予選敗退	0	0
100	C. W. Ping		0	0
			Ave. 6.4	Ave. 5.3

表5 チーム単位のWT出場回数（男子）

No	チーム (国名)	最終成績	WT 出場回数 (競技歴全体)	WT 出場回数 (東京2020後)
1	セルビア	5位	346	170
2	アメリカ	7位	102	80
3	中国	8位	45	45
4	ラトビア	4位	169	75
5	オランダ	1位	166	124
6	リトアニア	3位	128	83
7	フランス	2位	70	57
8	ポーランド	6位	35	31

9	モンゴル	予選敗退	191	101
10	オーストリア	予選敗退	60	58
11	ドイツ	予選敗退	15	15
12	イスラエル	予選敗退	12	12
13	スペイン	予選敗退	30	30
14	日本	予選敗退	16	14
15	スイス	予選敗退	160	88
16	プエルトリコ	予選敗退	59	59
17	マダガスカル	予選敗退	6	6
18	ハンガリー	予選敗退	39	5
19	カナダ	予選敗退	58	37
20	エジプト	予選敗退	3	3
21	ベルギー	予選敗退	134	121
22	ブラジル	予選敗退	14	5
23	ニュージーランド	予選敗退	3	3
24	香港	予選敗退	5	4
			Ave. 77.6	Ave. 51.0

表6 チーム単位のWS出場回数（女子）

No	チーム (国名)	最終成績	WS出場回数 (競技歴全体)	WS出場回数 (東京2020後)
1	フランス	8位	54	33
2	中国	6位	44	37
3	アメリカ	3位	16	16
4	アゼルバイジャン	7位	41	41
5	オーストラリア	5位	3	3
6	スペイン	2位	49	36
7	ドイツ	1位	63	60
8	カナダ	4位	80	59
9	ハンガリー	予選敗退	37	30
10	ポーランド	予選敗退	26	18
11	日本	予選敗退	6	5
12	イタリア	予選敗退	33	25

13	チェコ	予選敗退	24	20
14	オランダ	予選敗退	42	31
15	リトアニア	予選敗退	31	31
16	ウクライナ	予選敗退	22	16
17	チリ	予選敗退	11	11
18	モンゴル	予選敗退	28	22
19	イスラエル	予選敗退	6	7
20	エジプト	予選敗退	6	6
21	チュニジア	予選敗退	0	0
22	ブラジル	予選敗退	0	0
23	オーストリア	予選敗退	20	18
24	ケニア	予選敗退	0	0
25	香港	予選敗退	0	0
			Ave. 25.7	Ave. 21.0

表7 選手単位の国際大会初出場後の経過月数（男子）

No	最終メンバー (選手名)	最終成績	経過月数 (WT 初出場後)	経過月数 (代表大会初出場後)
1	M. Brankovic		94	94
2	D. Majstorovic	5位	119	119
3	S. Stojacic		69	69
4	M. Vasic		94	94
5	C. Barry		57	59
6	J. Fredette	7位	11	18
7	K. Maddox		73	73
8	D. Travis		32	32
9	W. Lu		11	11
10	N. Zhang	8位	12	12
11	J. Zhao		12	22
12	Y. Zhu		21	23
13	F. Lacis		9	23
14	A. Čavars	4位	93	93
15	N. Mieziš		94	94
16	Z. Raimo		9	11

17	J. Driessen		70	70
18	A. Slagter		45	51
19	W. de Jong	1位	58	58
20	D. van der Horst		83	83
21	E. Džiaugys		70	71
22	G. Matulis		45	45
23	A. Pukelis	3位	71	71
24	Š. Vingelis		60	60
25	R. Wilson		69	71
26	J. Rambaut		57	107
27	F. Seguela	2位	58	71
28	T. Vergiat		34	107
29	A. Bogucki		22	34
30	F. H. Matczak		0	0
31	M. A. Sokolowski	6位	0	0
32	P. Zamojski		59	59
33	A. Ariunbold		59	68
34	D. Davaasambu		85	114
35	D. Enkhbat	予選敗退	85	132
36	E. Onolbaatar		73	73
37	T. Blazan		0	59
38	N. Kaltenbrunner		45	45
39	M. Linortner	予選敗退	38	59
40	F. Söhnel		0	2
41	D. Agyeman		9	33
42	S. Beikame		9	33
43	L. Fertig	予選敗退	22	22
44	F. Giessmann		0	33
45	N. Artzi		21	71
46	T. Cohen		10	38
47	G. Noyovitch	予選敗退	9	38
48	O. Sadeh		11	57
49	J. Beiran		0	0
50	C. Martinez		32	35
51	U. Mendicote	予選敗退	0	81
52	F. Niang		0	11
53	T. Kennedy		0	12
54	K. Mitani		0	59
55	R. Ozawa	予選敗退	22	79
56	R. Yasuoka		56	60

パリ 2024 オリンピックに向けた 3 人制バスケットボールの代表強化戦略に関する研究

57	J. Dubas		46	46
58	N. Jurkovitz		81	83
59	M. Lehmann	予選敗退	93	94
60	G. Martin		142	142
61	L. Allende		20	29
62	L. Cuascut		12	29
63	A. Ocasio	予選敗退	30	30
64	A. Ralat		20	117
65	E. Randriamampionona		22	78
66	A. Rasolomanana		0	0
67	L. Ratianarivo	予選敗退	22	66
68	A. Solondrainy		22	70
69	A. Demeter		69	71
70	T. Ivosev		141	141
71	L. Komma	予選敗退	9	10
72	U. Rosic		33	88
73	J. Desrosiers		23	23
74	B. Gill		94	94
75	A. Johnson	予選敗退	70	70
76	K. Mcknight		9	9
77	R. Abdallah		33	83
78	I. Hesham		22	33
79	A. Y. A. A. Mohamed	予選敗退	0	54
80	Y. Refaat		0	34
81	B. De Valck		35	35
82	D. Donkor		21	21
83	J. Foerts	予選敗退	33	33
84	T. Vervoort		44	51
85	L. Branquinho		60	60
86	A. Ferros		60	60
87	M. Parcial	予選敗退	18	55
88	D. Von Haydin		0	19
89	D. Kelman-Poto		0	26
90	C. McIntosh		24	67
91	N. Mccullough	予選敗退	8	107
92	A. Tonge		0	12
93	L. Tsoi		84	132
94	O. Xu		12	12
95	R. Yang	予選敗退	0	2
96	S. H. Yeung		6	6
			Ave. 37.7	Ave. 54.3

表8 選手単位の国際大会初出場後の経過月数（女子）

No	最終メンバー (選手名)	最終成績	経過月数 (WS初出場後)	経過月数 (代表大会初出場後)
1	M. Djekoundade		57	59
2	L. Guapo		59	90
3	H. Limouzin	8位	24	59
4	M. Paget		69	116
5	M. Chen		21	22
6	J. Wan		21	34
7	L. Wang	6位	22	34
8	Z. Zhang		72	73
9	C. Burdick		34	119
10	D. Hamby		0	6
11	R. Howard	3位	0	0
12	H. Van Lith		32	67
13	T. Hayes		0	107
14	A. Mollenhauer		12	118
15	D. Ulyanova	7位	12	118
16	M. Walker		12	94
17	A. Maley		9	104
18	L. Mansfield		12	22
19	M. Whittle	5位	9	60
20	A. Wilson		0	22
21	G. A. De Armiño		35	35
22	J. Camilion		11	22
23	V. Gimeno	2位	58	107
24	S. Ygueravide		58	94
25	S. Brunckhorst		35	59
26	S. Greinacher		35	59
27	L. Rodefeld	1位	35	117
28	M. Reichert		22	22
29	K. Bosch		22	30
30	P. Crozon		59	152
31	K. Plouffe	4位	59	59
32	M. Plouffe		59	59
33	V. Böröndy		58	83
34	V. Kiss		0	0
35	K. Papp	予選敗退	58	83
36	F. Szabó		12	12

37	M. L. Kastanek		0	0
38	K. Sosnowska		58	118
39	W. Telenga	予選敗退	10	10
40	A. Ziemborska		10	81
41	K. Miyashita		57	70
42	T. Nakada		12	23
43	S. Takada	予選敗退	11	12
44	M. Takahashi		12	22
45	C. Consolini		11	36
46	R. D'Alie		59	83
47	S. Madera	予選敗退	22	36
48	L. Spreafico		9	9
49	K. Galíčková		56	83
50	A. Levínská		58	88
51	A. Rylichová	予選敗退	23	94
52	K. Suchanová		0	0
53	L. Bettonvil		60	94
54	J. Boonstra		33	117
55	N. Driessen	予選敗退	36	81
56	Z. Slagter		36	95
57	M. Grigalauskyte		24	24
58	G. Labuckiene		11	12
59	K. Nacickaite	予選敗退	34	35
60	G. Sulske		34	35
61	K. Filevych		69	107
62	A. Liashko		10	81
63	O. Mollova	予選敗退	12	95
64	M. Uro-Nilie		12	152
65	C. Abuyeres		10	18
66	J. Ljubetic		10	79
67	Z. Morrison	予選敗退	10	22
68	F. Ovalle		9	10
69	A. Bat-Erdene		36	59
70	B. Murat		0	0
71	K. Onolbaatar	予選敗退	57	71
72	B. Tsendjav		0	57
73	M. Revahe		0	11
74	D. Saar		36	36
75	N. Shalom	予選敗退	0	117
76	T. Yakov		34	35

77	H. Amer		12	12
78	H. Hatem		0	22
79	R. Mohamed	予選敗退	12	120
80	M. M. S. M. Sadek		0	10
81	R. Abidi		0	22
82	S. Dridi		0	0
83	M. Mallat	予選敗退	0	0
84	M. Trabelsi		0	0
85	C. Santos		0	0
86	V. Marcelino		0	55
87	T. Silva	予選敗退	0	30
88	L. de Souza		0	23
89	A. Allesch		22	24
90	A. Fuchs-Robetin		35	95
91	R. Kalaydjiev	予選敗退	35	95
92	I. Orekhova		0	0
93	N. Mwangale		0	54
94	M. Okot		0	22
95	V. Reynolds	予選敗退	0	22
96	M. Wanyama		0	7
97	T. K. Li		0	73
98	T. F. Ma		0	214
99	H. L. Tong	予選敗退	0	14
100	C. W. Ping		0	14
			Ave. 21.9	Av. 54.5

表9 チーム単位の国際大会初出場後の経過月数（男子）

No	最終メンバー (選手名)	最終成績	経過月数 (WS初出場後)	経過月数 (代表大会初出場後)
1	セルビア	5位	376	376
2	アメリカ	7位	173	182
3	中国	8位	56	68
4	ラトビア	4位	205	221
5	オランダ	1位	256	262
6	リトアニア	3位	246	247
7	フランス	2位	218	356
8	ポーランド	6位	81	93

パリ 2024 オリンピックに向けた 3 人制バスケットボールの代表強化戦略に関する研究

9	モンゴル	予選敗退	302	387
10	オーストリア	予選敗退	83	165
11	ドイツ	予選敗退	40	121
12	イスラエル	予選敗退	51	204
13	スペイン	予選敗退	32	127
14	日本	予選敗退	78	210
15	スイス	予選敗退	362	365
16	プエルトリコ	予選敗退	82	205
17	マダガスカル	予選敗退	66	214
18	ハンガリー	予選敗退	252	310
19	カナダ	予選敗退	196	196
20	エジプト	予選敗退	55	204
21	ベルギー	予選敗退	133	140
22	ブラジル	予選敗退	138	194
23	ニュージーランド	予選敗退	32	212
24	香港	予選敗退	102	152
			Ave. 150.6	Ave. 217.1

表10 チーム単位の国際大会初出場後の経過月数（女子）

No	最終メンバー (選手名)	最終成績	経過月数 (WS 初出場後)	経過月数 (代表大会初出場後)
1	フランス	8位	209	324
2	中国	6位	136	163
3	アメリカ	3位	66	192
4	アゼルバイジャン	7位	36	437
5	オーストラリア	5位	30	208
6	スペイン	2位	162	258
7	ドイツ	1位	127	257
8	カナダ	4位	199	300
9	ハンガリー	予選敗退	128	178
10	ポーランド	予選敗退	78	209
11	日本	予選敗退	92	127
12	イタリア	予選敗退	101	164

13	チェコ	予選敗退	137	265
14	オランダ	予選敗退	165	387
15	リトアニア	予選敗退	103	106
16	ウクライナ	予選敗退	103	435
17	チリ	予選敗退	39	129
18	モンゴル	予選敗退	93	187
19	イスラエル	予選敗退	70	199
20	エジプト	予選敗退	24	164
21	チュニジア	予選敗退	0	22
22	ブラジル	予選敗退	0	108
23	オーストリア	予選敗退	92	214
24	ケニア	予選敗退	0	105
25	香港	予選敗退	0	315
			Ave. 87.6	Ave. 218.1

2.5 分析方法

統計処理は、パリ2024の出場チームと不出場チームにおける「WTまたはWSの出場回数」および「国際大会初出場後の経過月数」の平均値の差を明らかにするためt検定を実施した。また、パリ2024に出場した男女各8チームについて、本大会の順位と「WTまたはWSの出場回数」および「国際大会初出場後の経過月数」との関係を検討するために相関分析を行った。統計的有意性の判断基準は、有意水準を $p < 0.05$ とした。これらの統計分析には、IBM SPSS Statistics 21.0を使用した。さらに、得られたデータを整理し、パリ2024における「競技成績」に関する全体的な傾向を明らかにした。

3. 結果と考察

3.1 パリ2024における出場チームと不出場チームとの比較

図1および図2に示す通り、男子の「WT出場回数」については、パリ2024の出場チームと不出場チームとの間で、「競技歴全体」および「東京2020後」の双方の期間において有意差が認められた ($p < 0.01$)。同様に、図3および図4に示す女子の「WS出場回数」についても、両期間で有意差が認められた ($p < 0.01$)。

これらの結果は、男女に共通して、パリ2024出場権獲得に向けて、WTまたはWSへの継続的参加が統計的に有意な関連を持つことを示唆している。すなわち、パリ2024出場に向けた3x3代表強化戦略として、選手の競技歴全体およびオリンピック開催サイクルを通じたWTまたはWSへの「世界転戦」を重視することは有効であったと考えられる。

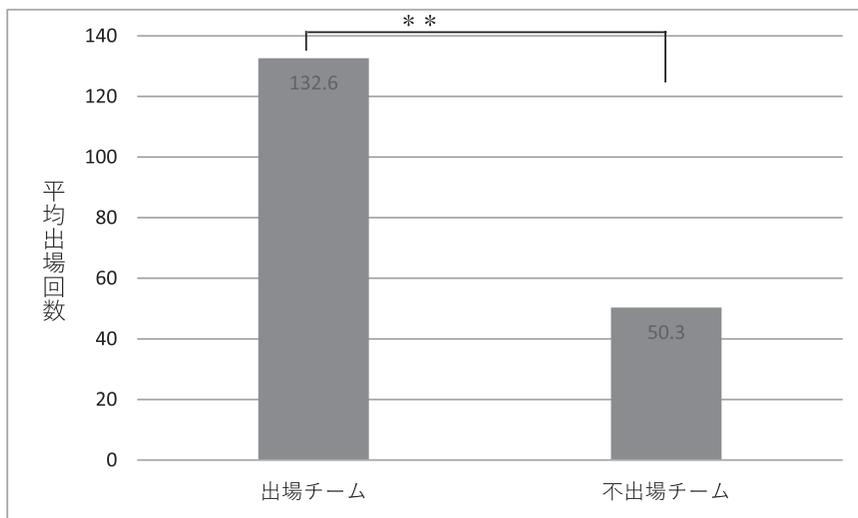


図1. 男子出場／不出場チームの比較：WT平均出場回数（競技歴全体）

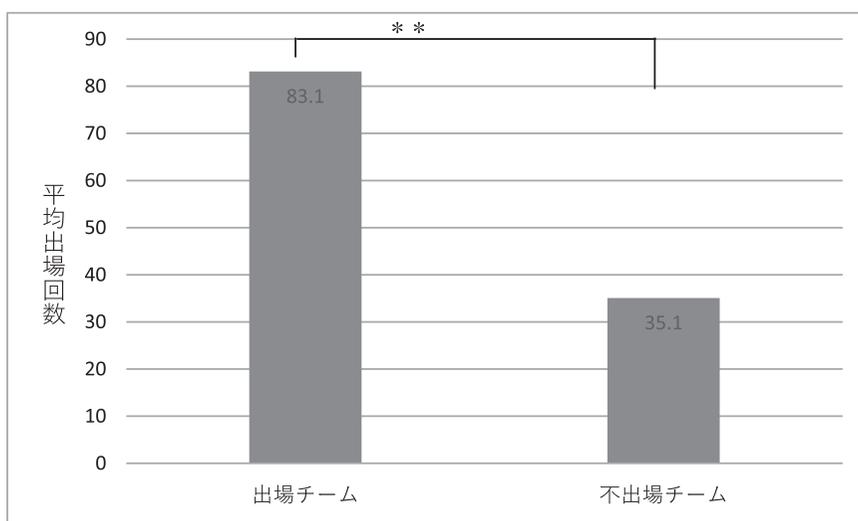


図2. 男子出場／不出場チームの比較：WT平均出場回数（東京2020後）

次に、図5および図6に示す通り、男子の「国際大会初出場後の経過月数」については、パリ2024の「出場チーム」と「不出場チーム」との間で、「WT初出場後」では有意差 ($p < 0.05$) が認められたが、「代表大会初出場後」では有意差が認められなかった。一方、図7および図8に示す女子の「国際大会初出場後の経過月数」については、パリ2024の「出場チーム」と「不出場チーム」との間で、「WS初出場後」および「代表大会初出場後」の双方の期間において有意差 ($p < 0.05$) が認められた。

これらの結果は、男女に共通して、世界最高峰ツアー大会であるWTやWSの初出場からの競技歴

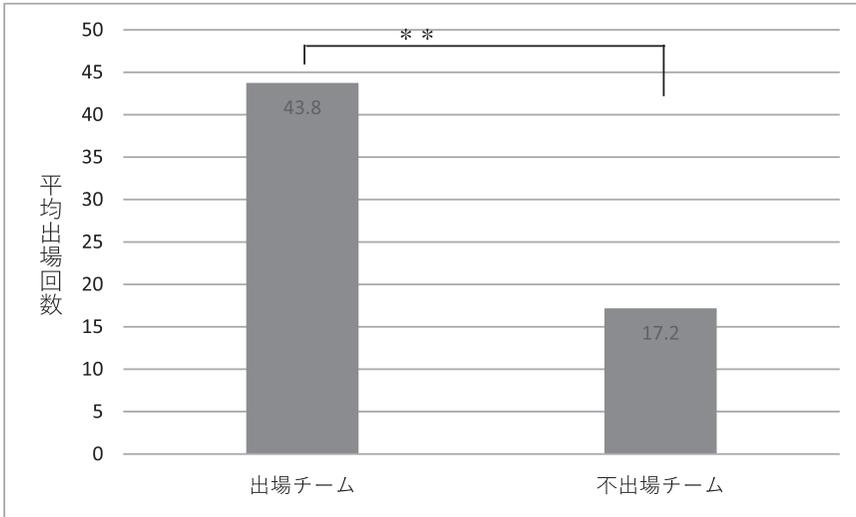


図3. 女子出場／不出場チームの比較：WS平均出場回数（競技歴全体）

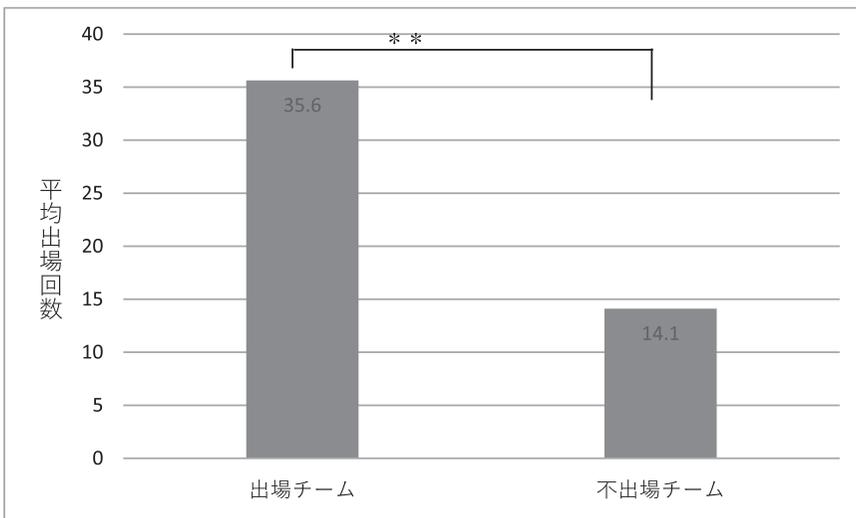


図4. 女子出場／不出場チームの比較：WS平均出場回数（東京2020後）

がパリ2024出場権獲得に対して統計的に有意に関連していたことを示唆している。ただし、男子では、WTに限らないオープンカテゴリーやアンダーカテゴリーを含む「代表大会初出場後」の競技歴が統計的に有意な関連を示さなかった。一方、女子では、「代表大会初出場後」の競技歴もまた出場権獲得に有意に関連していた。

つまり、パリ2024出場に向けた3x3代表強化戦略として、男女ともにWTやWSの初出場から長い期間の競技歴を重ねることは有効であったが、WTやWSだけでなく実際に国家代表として3x3国際

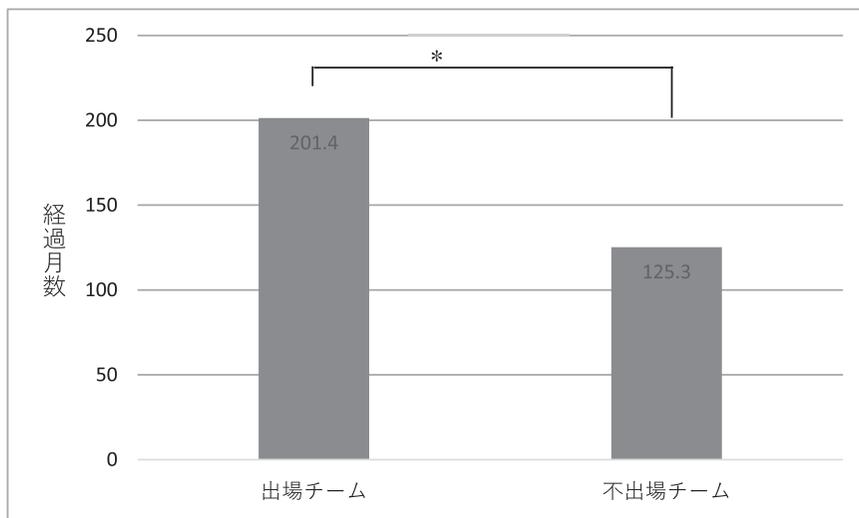


図5. 男子出場／不出場チームの比較：国際大会初出場後の経過月数（WT初出場後）

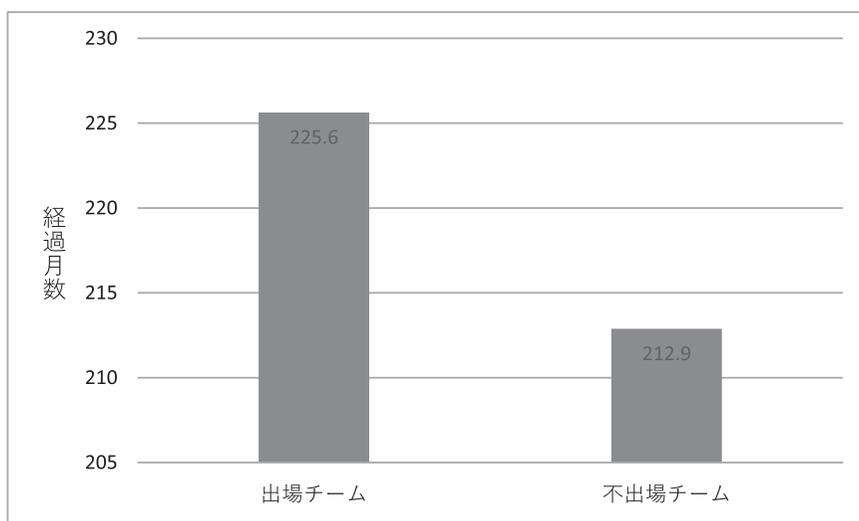


図6. 男子出場／不出場チームの比較：国際大会初出場後の経過月数(代表大会初出場後)

大会への出場経験が効果を持ったのは女子に限られた。

この男女差の背景には、これまでの国際大会における男女別の開催実績（FIBA, n.d.c）や大会規定（FIBA, n.d.d）の違いが影響していると推察される。3x3は第1回ユースオリンピック競技大会（2010／シンガポール）で代表大会を開催して以来、オープンカテゴリーやアンダーカテゴリーを含む代表大会（例えば、FIBA3x3ワールドカップなど）は常に男女同時開催であった。しかし、世界最高峰ツアー大会については男女で差異がある。男子のWTは2012年に開幕し、当初から世界各地

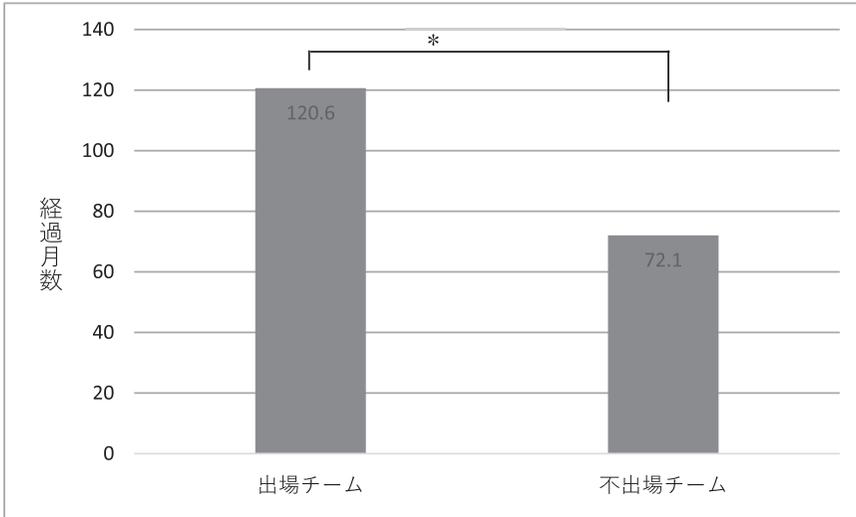


図7. 女子出場／不出場チームの比較：国際大会初出場後の経過月数（WS初出場後）

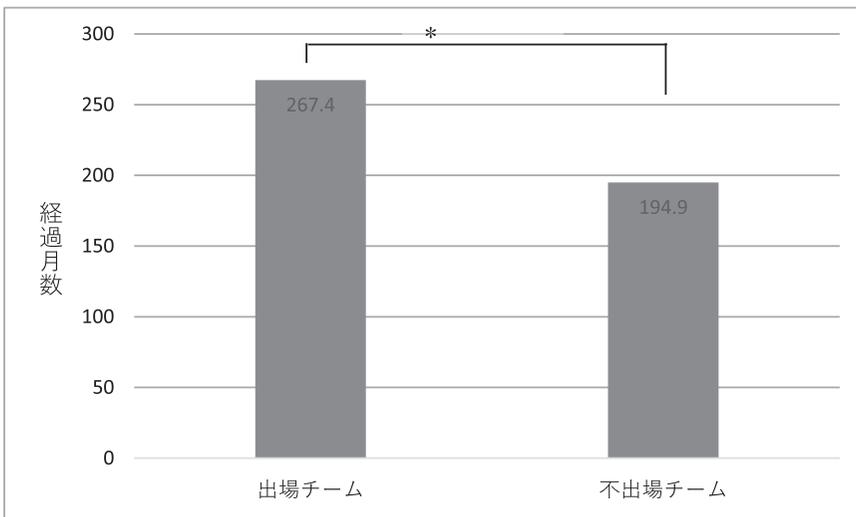


図8. 女子出場／不出場チームの比較：国際大会初出場後の経過月数(代表大会初出場後)

の都市を代表するチームが多数参加してきたのに対し、女子のWSは男子のWT開幕より7年後となる2019年に開幕し、主に各国中央競技団体が編成および派遣するチームが参加の中心であり、男子のWTと比較すれば女子のWSへの出場機会は限られていた。アレックス氏（FLY MAG編集部，2024）によれば、ツアー開催期間や大会数および参加チーム数などといった大会規模も男子のWTの方が女子のWSを上回っている。

対象選手の国際大会の初出場歴に着目すると、男子ではWTを初出場とする割合が32.3%（96名

中31名)であったのに対し、女子ではWSを初出場とする割合は10.0% (100名中10名)に留まった。この点からも、女子は男子に比べて代表大会への依存度が高かったことが裏づけられる。

つまり、男子選手の強化活動の主戦場は、当初からWTであったのに対し、女子選手の強化活動の主戦場は、代表大会であった。この違いが、実際に国家代表として3x3国際大会に出場する経験が女子においてのみ有効な3x3代表強化戦略となった理由と解釈できる。

ただし近年では、女子のWSにおいても、各国中央競技団体による派遣チームに加え、パトロンと呼ばれるスポンサー支援によるコマーシャルチームの参加が認められている。今後、このようなチームの増加や大会規模の拡大が進展すれば、女子においても男子と同様に、選手の強化活動の主戦場が代表大会からWSへ移行される可能性が高い。そのため今後の3x3代表強化戦略の計画立案においては、この点を十分に考慮する必要があると考えられる。

3.2 パリ 2024 出場チーム間における順位との比較

図9および図10に示す通り、男子の「WT出場回数」については、パリ 2024 出場チーム間の順位との比較において、「競技歴全体」および「東京2020後」の双方の期間で有意差が認められなかった。同様に、図11および図12に示す女子の「WS出場回数」についても、両期間で有意差が認められなかった。

これらの結果は、男女に共通して、パリ 2024 出場チーム間の順位とWTまたはWSへの継続的参加との間に統計的に有意な関連がなかったことを示している。その背景としては、先述の通り、本大会に出場するためにはWTまたはWSへの継続的参加が前提条件であり、出場チームにおいては既に一定以上の出場実績が確保されていることが考えられる。実際に、男子不出場チームのWT平均出場回数は「競技歴全体」で50.3回、「東京2020後」で35.1回であったのに対し、出場チームで両期間

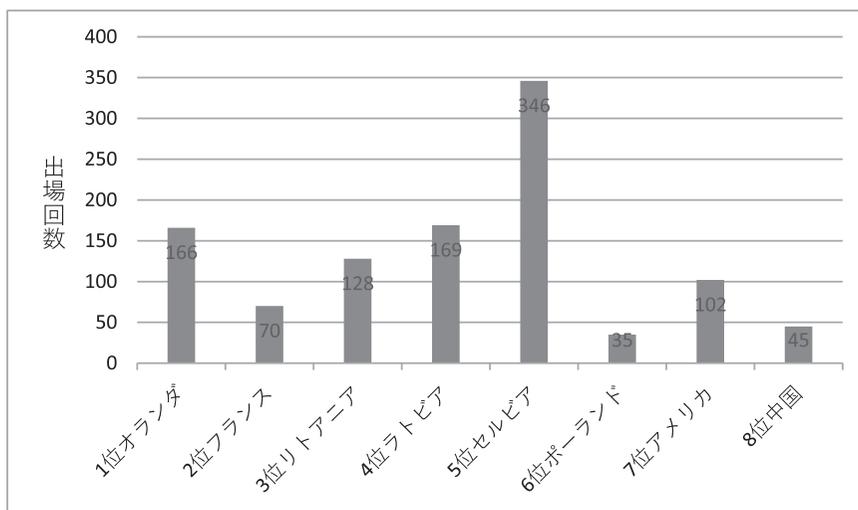


図9. 男子出場チーム間の順位との比較：WT 出場回数（競技歴全体）

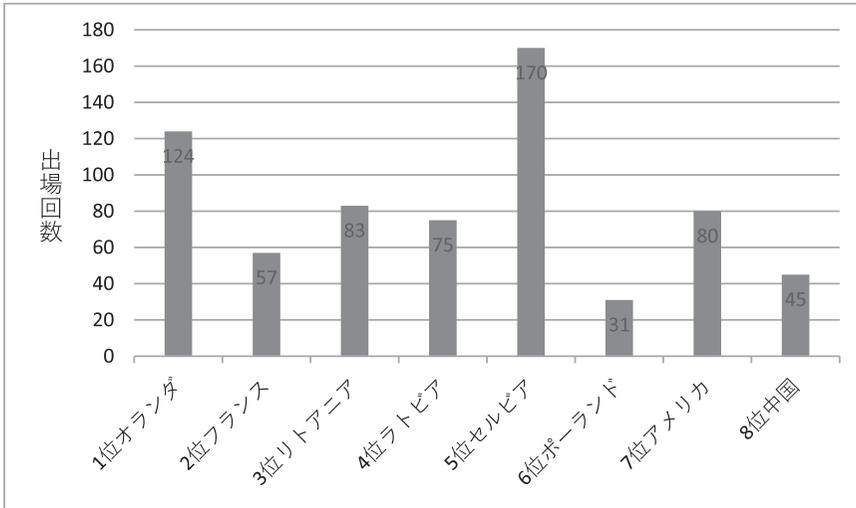


図10. 男子出場チーム間の順位との比較：WT出場回数（東京2020後）

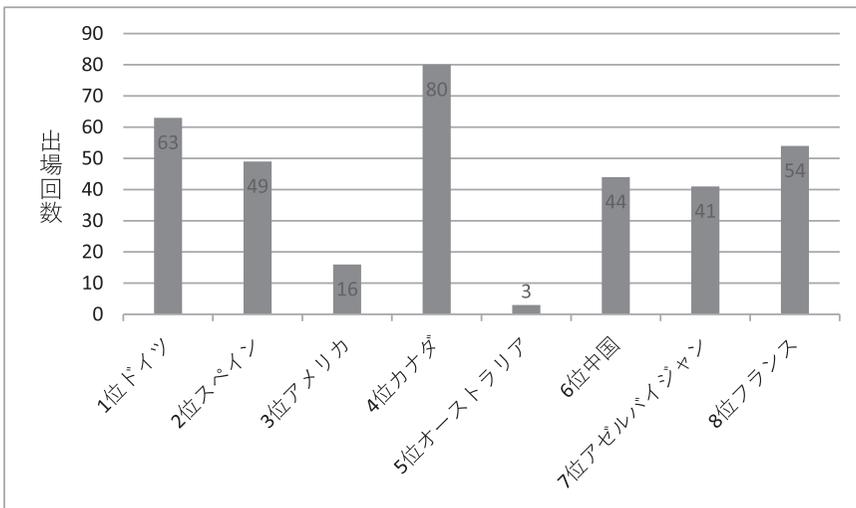


図11. 女子出場チーム間の順位との比較：WS出場回数（競技歴全体）

ともにこの水準を下回ったのはポーランド（それぞれ35回および31回）のみであった。同様に、女子不出場チームのWS平均出場回数は「競技全体」で17.2回、「東京2020後」で14.1回であったのに対して、出場チームで両期間ともに下回ったのはオーストラリア（それぞれ3回および3回）のみであった。

すなわち、パリ2024本大会において上位の「競技成績」を収めるためには、WTまたはWSへの「世界転戦」はもはや差別化要因ではなく、当然の前提条件となっていた。その上でさらに、他の方策を

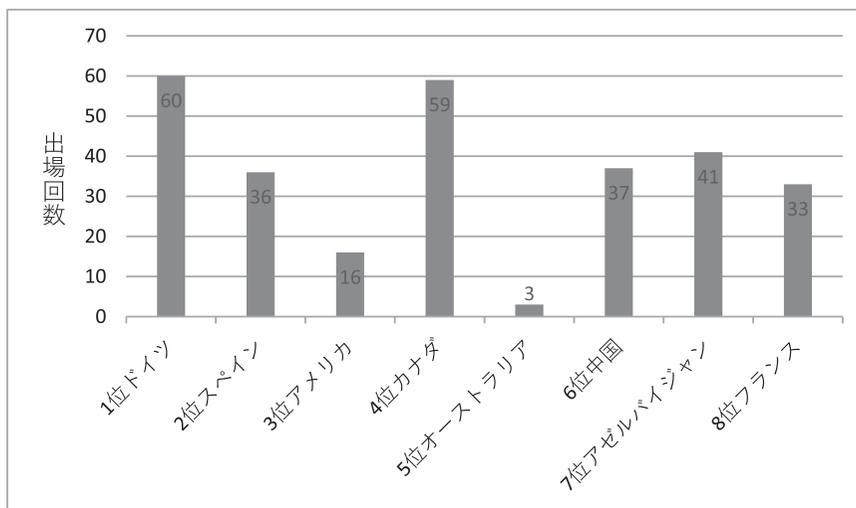


図12. 女子出場チーム間の順位との比較：WS 出場回数（東京2020後）

組み合わせた 3x3 代表強化戦略を講じる必要があると考えられる。

次に、図13および図14に示す通り、男子の「国際大会初出場後の経過月数」については、パリ 2024 出場チーム間の順位と比較して、「WT 初出場後」および「代表大会初出場後」の双方の期間において有意差が認められた ($p < 0.05$)。一方、図15および図16に示す女子の「3x3 国際大会初出場後の経過月数」については、いずれの期間においても有意差が認められなかった。

この結果は、男子においては、WT および代表大会への初出場以降に蓄積された競技経験が、パリ 2024 本大会の順位に統計的に有意に関連していたことを示唆している。実際に、男子出場チームの「3x3 国際大会初出場後の経過月数」は、「WT 初出場後」で平均 201.4 ヶ月、「代表大会初出場後」で平均 225.6 ヶ月であったのに対し、この水準を下回ったポーランド（それぞれ 21 ヶ月および 93 ヶ月）は 6 位、アメリカ（それぞれ 173 ヶ月および 182 ヶ月）は 7 位、中国（それぞれ 56 ヶ月および 68 ヶ月）は 8 位にいずれも下位の順位に留まった。換言すれば、上位チームほど、長期間にわたり「世界転戦」を通じて経験を積み重ね、トライ & エラーを修正する過程を経ることで競技力を高めてきたと考えられる。男子においては、こうした経験の蓄積が国際的な競技レベルを底上げし、その経験の蓄積の差が最終順位を左右したと推察される。

一方、女子出場チームにおいては、「国際大会初出場後の経過月数」のいずれの期間でも順位に有意な影響を示さなかった。女子出場チームの「国際大会初出場後の経過月数」は、「WT 初出場後」で平均 120.6 ヶ月、「代表大会初出場後」で平均 267.4 ヶ月であったが、この水準を上回ったフランス（それぞれ 209 ヶ月および 324 ヶ月）は開催国の利を得ながらも 8 位に、またアゼルバイジャン（それぞれ 36 ヶ月および 437 ヶ月）は 7 位に留まった。逆に、この水準を大きく下回ったアメリカ（それぞれ 66 ヶ月および 192 ヶ月）は 3 位で銅メダルを獲得し、ドイツも、「WT 初出場後」では平均を僅かに上回る 127 ヶ月であったものの、「代表大会初出場後」では平均を下回る 257 ヶ月であったに

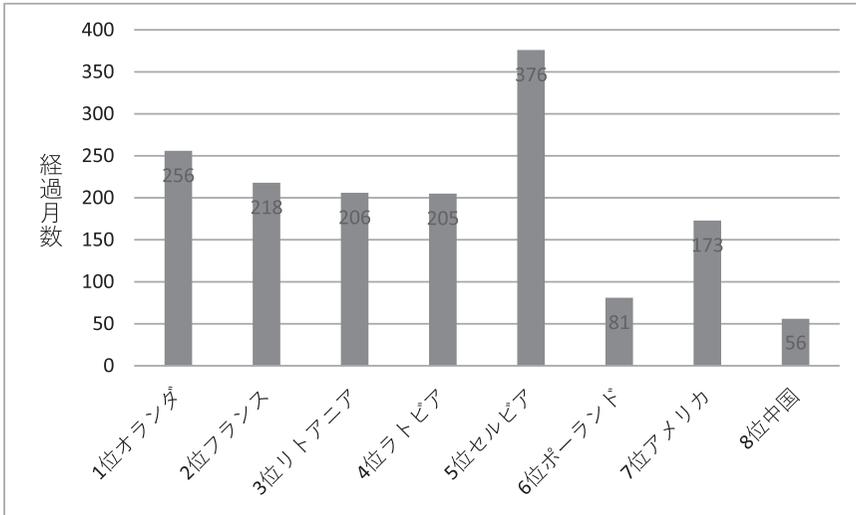


図13. 男子出場チーム間の順位との比較：国際大会初出場後の経過月数(WT初出場後)

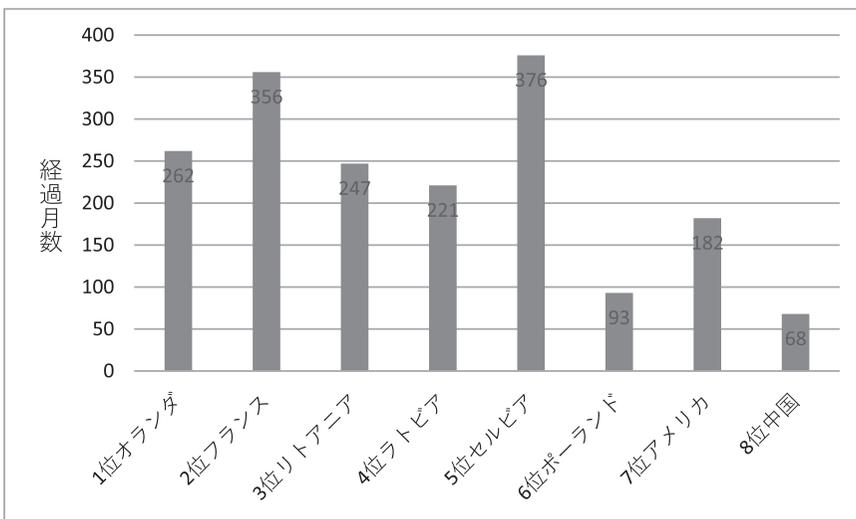


図14. 男子出場チーム間の順位との比較：国際大会初出場後の経過月数（代表大会初出場後）

も関わらず1位で金メダルを獲得した。加えて、アメリカの選手単位の競技歴をみると、5v5における世界最高峰リーグWNBAに所属するHamby選手とHoward選手は、パリ2024開幕約3ヶ月前までにWS出場経験がなく、特にHoward選手はWSに限らず3x3代表大会の出場歴すらなかった。おそらく、アメリカは5v5で個人の競技レベルの高いWNBA選手を3x3で起用することを3x3代表強化戦略の方策としたと考えられる。

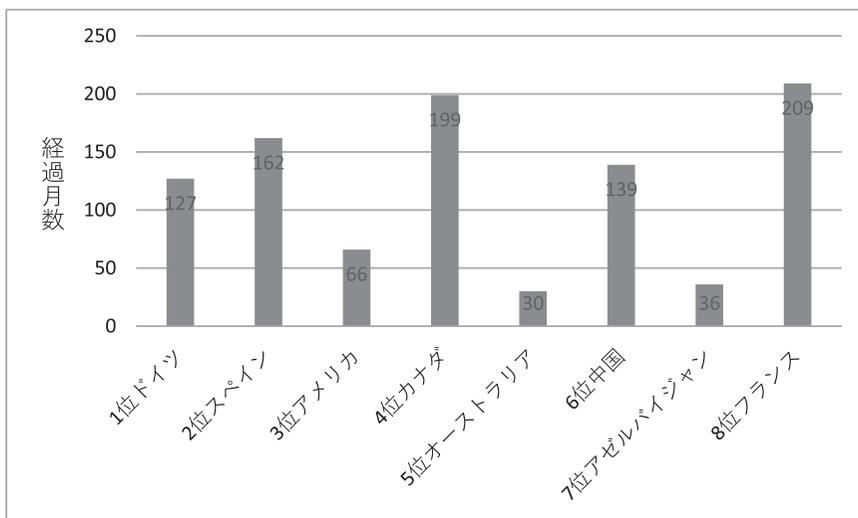


図 15. 女子出場チーム間の順位との比較：国際大会初出場後の経過月数 (WS 初出場後)

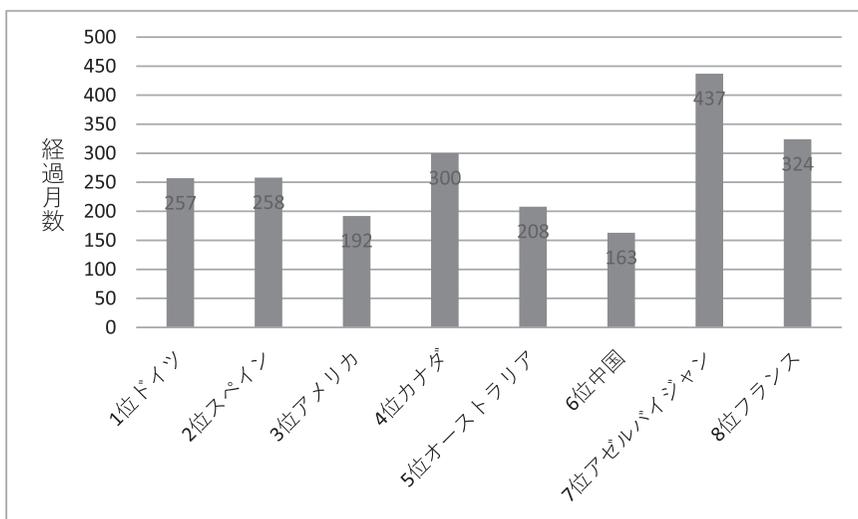


図 16. 女子出場チーム間の順位との比較：国際大会初出場後の経過月数（代表大会初出場後）

すなわち、「オリンピックという各国代表チームによる世界最高峰大会に出場を果たしてメダルを獲得していくためには、そのレベルの国際大会をより多く経験しながら、その中で『トライ&エラーからの修正を行いチームの“一体感”を高めていくべき』（日本バスケットボール協会、2025b）であるのならば、女子においては、現状ではこのような国際大会出場経験の多寡に関わらず、高い個人能力を有する選手を編成することで一定の競技成績を収めることが可能である。これは、Csurilla et

al. (2023) が指摘するように、3x3の試合では、女子と男子の間には身体的および技術的知識に関する隔たりがあり、女子において選手間の差がより大きいことを裏づけるものである。したがって、パリ2024時点では、女子は男子と異なり「国際大会初出場後の経過月数」が本大会の順位に直結せず、選手の個人能力に依存した3x3代表強化戦略が「競技成績」を収めるために有効であったと結論づけられる。

4. まとめ

本研究は、パリ2024における3x3代表強化戦略を対象として、国際大会への継続的参加、いわゆる「世界転戦」と「競技成績」との関係性を統計的に検討した。その結果、以下の知見が得られた。

第1に、男女を問わず、パリ2024出場権を獲得したチームは、不出場チームと比較してWTあるいはWSへの出場回数が有意に多く、また、その初出場からの経過期間も長かった。すなわち、3x3における「世界転戦」は、出場権獲得に向けた有効な要因であることが示された。特に男子においては、WT初出場以降の競技歴が出場可否に直結し、女子においてはWSに加え代表大会での競技歴も有意に関連していた点は、男女の3x3代表強化戦略における制度的・歴史的背景の差を反映するものである。

第2に、パリ2024出場チーム間の比較では、WTあるいはWS出場回数の差は最終順位に有意な影響を及ぼさなかった。これは、出場チームにおいてWTやWSへの継続的参加が「本大会出場の前提条件」として一定水準以上確保されていたためと考えられる。一方で、男子においては、WTおよび代表大会初出場後の経過月数が最終順位に有意に関連しており、国際大会初出場からの経験の蓄積が競技力向上に直結することが示唆された。対照的に、女子においては、国際大会初出場からの競技歴が最終順位に有意な影響を示さず、個人能力の高い選手を編成することで短期的に成果を収め得る段階にあることが確認された。さらに、今後、WSにおいて各国中央競技団体による代表チームの派遣とは異なり、スポンサー支援を受けたコマーシャルチームが増加し、WSのツアー大会数がWTのように拡大していけば、女子においても男子に近い傾向が現れる可能性がある。

以上の知見は、3x3代表強化戦略において、男女ともに「世界転戦」がパリ2024出場権獲得に不可欠であったことを裏づけるとともに、男子では大会出場による経験の蓄積が順位向上に直結する一方、女子では代表大会依存や選手個人の能力に依拠する傾向が強いことを示している。このことは、日本バスケットボール協会(2025b)がLA2028に向けて提起した「世界転戦」の3x3代表強化戦略が、男子と女子で異なる補完すべき強化策を必要とすることを意味する。

本研究の結果は、国際大会への参加が競技成績の成功を導く上で有効な推進力であるとしたSPLISSの示唆(De Bosscher et al., 2015, p. 15)を、3x3においても裏づけるものである。さらに、Csurilla et al. (2023) が指摘するように、3x3は試合結果に運の要素が介在しやすい特性を持つ。しかしながら、WTやWSへの「世界転戦」は、この不確実性を一定程度緩和し、安定的により高い「競技成績」を達成するための有効な強化戦略として機能する可能性が高い。したがって、日本バスケットボール協会(日本バスケットボール協会, 2025a)が取り纏めた報告書「3x3バスケットボール・

テクニカルレポート 2024」で強調されたように、LA2028を見据えた 3x3 代表強化戦略としての「世界転戦」は、強化資源を投入するに値する合理的な方策であると評価できる。

もっとも、本研究において用いた「出場回数」や「初出場からの経過月数」といった指標は、経験の量的側面を示す一方で、経験の質を必ずしも十分に捉えるものではない。例えば、大会レベル、対戦相手の状況、実際に学習された戦術的な機会などは、本研究の指標には反映されていない。したがって、本研究で得られた結果は「統計的に有意な傾向」を明らかにするものであり、指標の限界を踏まえた解釈が求められる。

今後の課題としては、経験の質を評価できる詳細な競技データの収集、男女間での制度的差異や歴史的背景を踏まえた比較研究、強化戦略における国際大会への参加以外の要因に関する研究などが挙げられる。また、本研究ではオリンピック開催サイクルを起点とした検討を試みたが、新型コロナウイルス禍により東京 2020 開催が 1 年延期になったことでパリ 2024 までが 3 年間であったことを踏まえると、今後は本来の 4 年間に基づく検討が必要である。こうした課題を発展的に検討することで、LA2028 およびその後のオリンピックに向けた 3x3 代表強化戦略の精緻化に資する知見を更に蓄積できるだろう。

参考・引用文献

- 網廣義希・金澤篤志・内山治樹 (2021) 3x3 に特異な「トランジション」局面の戦術的方略に関する研究, *バスケットボール研究*, 7, pp. 13-22.
- Bernard, A. B., and Busse, M. R. (2004) Who Wins the Olympic Games: Economic Resources and Medal Totals. *The Review of Economics and Statistics*, 86 (1): pp. 413-417.
- Boros, Z., Toth, Kata., Csurilla, G., and Sterbenz, T. (2022) A comparison of 5v5 and 3x3 Men's Basketball Regarding Shot Selection and Efficiency. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 19 (22): 15137.
- Conte, D., Straigas, E., Clemente, F. M., Gómez, M., and Tessitore, A. (2019) Performance profile and game-related statistics of FIBA 3x3 Basketball World Cup 2017. *Biology of Sports*, 36(2): pp. 149-154.
- Csurilla, G., and Fertó, I. (2022) How long does a medal win last? Survival analysis of the duration of Olympic success. *Applied economics*, 54 (43): p. 5006.
- Csurilla, G., Boros, Z., Fűrész, D., Gyimesi, A., and Raab, M. (2023) How Much Is Winning a Matter of Luck? A Comparison of 3x3 and 5v5 Basketball. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 20 (4): 2911.
- De Bosscher, V., Bingham, J., Shibli, S., van Bottenburg, and M., De Knop, P. (2008) The global sporting arms race: An international comparative study on sports policy factors leading to international sporting success. *Meyer & Meyer Sport*: p. 18.
- De Bosscher, V., Shibli, S., Westerbeek, H., and van Bottenburg, M. (2015) Successful elite sport policies: An international comparison of the Sports Policy factors Leading to International Sporting Success (SPLISS 2.0) in 15 nations. *Meyer & Meyer Sport*.
- De Bosscher, V., Shibli, S., Smismans, S., Weber, A. Ch., et al. (2024) Paris 2024: Evaluation of the elite sport

- expenditure and success of 17 nations. Owl Press: p. 6.
- FIBA (2012) 3x3 - National Federations embracing 3x3, <https://fiba3x3.com/en/news/2012/3x3-national-federations-embracing-3x3.html#:~:text=Martin%20Ho%20Suie%20Sang%2C%20Manager,2016%20Rio%20de%20Janeiro%20games>, (2025年8月25日参照)
- FIBA (2022) National Federations Action Plan for Paris 2024, <https://fiba3x3.com/docs/action-plan-for-paris-2024.pdf>, (2025年8月25日参照)
- FIBA (2024) FIBA Celebrates the Unprecedented Success of 3x3 Basketball at Paris 2024, <https://fiba3x3.com/2024/olympics/news/fiba-celebrates-the-unprecedented-success-of-3x3-basketball-at-paris-2024>, (2025年8月25日参照)
- FIBA (2025) LA28 Olympics to feature an expanded roster of 12 teams per gender in 3x3 Basketball, <https://fiba3x3.com/en/news/2025/la28-olympics-to-feature-an-expanded-roster-of-12-teams-per-gender-in-3x3.html>, (2025年8月25日参照)
- FIBA (n.d.a) FIBA3x3, <https://fiba3x3.com/2024>, (2025年8月25日参照)
- FIBA (n.d.b) FIBA3x3 Planet, <https://play.fiba3x3.com/players>, (2025年8月25日参照)
- FIBA (n.d.c) GLOSSARY, <https://fiba3x3.com/en/glossary.html>, (2025年8月25日参照)
- FIBA (n.d.d) REGULATIONS, <https://fiba3x3.com/en/documents.html#regulations>, (2025年8月25日参照)
- FLY MAG編集部 (2024) パリで3×3の観覧者は20万人！ FIBAの3×3責任者が語る競技の最前線…東京からパリ、そしてロスへ, <https://flymag.jp/column/50566/>, (2025年8月25日参照)
- 船先康平・白井克佳・岡田幸彦 (2022) わが国中央競技団体の組織能力とエリートスポーツシステムの関係に関する事例研究, 体育学研究, 67, pp. 49-50.
- 袴田智子・大伴美奈・飯塚哲司・斉藤辰哉・中村真理子 (2022) 感染症対策下で実施した暑熱順化トレーニングサポート一男女3x3バスケットボール競技日本代表選手を対象としたサポート事例一, Journal of high performance sport, 9, pp. 163-169.
- Houlihan, B., and Green, M. (2008) Comparative Elite Sport Development: Systems, Structures and Public Policy. Butterworth Heinemann: pp. 2-3.
- IOC (2022) How to qualify for 3x3 basketball at Paris 2024. The Olympics qualification system explained, <https://www.olympics.com/en/news/how-to-qualify-for-3x3-basketball-paris-2024-olympics-qualification-system>, (2025年8月25日参照)
- 小谷究・飯田祥明・石川峻・金澤篤志 (2024) 非熟練者大学生における3x3の運動特性およびゲーム特性：バスケットボール競技の授業での実施を想定して, 運動とスポーツの科学, 30 (1) : pp. 11-19.
- Madarame, H. (2023) Age and Sex Differences in Shot Distribution and Accuracy in International 3x3 Basketball Tournaments. Montenegrin Journal of Sports Science and Medicine, 19(1): pp. 11-16.
- 日本バスケットボール協会 (2024) 3×3女子日本代表 [OQT] 最終日 延長戦の末ドイツに敗れ, オリンピックへの挑戦が終了, http://www.japanbasketball.jp/japan/75294?doing_wp_cron=1755007747.3500540256500244140625, (2025年8月25日参照)
- 日本バスケットボール協会 (2025) 3x3バスケットボール・テクニカルレポート2024, <http://www.japanbasketball.jp/paris2024-technicalreport/3x3/>, (2025年8月25日参照)
- 日本バスケットボール協会 (2025a) 戦いの舞台は“国内から世界へ”, 3x3バスケットボール・テクニカルレポート2024, <http://www.japanbasketball.jp/paris2024-technicalreport/3x3/07/>, (2025年8月25日参照)
- 日本バスケットボール協会 (2025b) 大会総括, 3x3バスケットボール・テクニカルレポート2024, <http://www.japanbasketball.jp/paris2024-technicalreport/3x3/04/summary.html>, (2025年8月25日)

パリ 2024 オリンピックに向けた 3 人制バスケットボールの代表強化戦略に関する研究

- 日本オリンピック委員会 (2024) オリンピック憲章, <https://www.joc.or.jp/olympism/charter/pdf/olympiccharter2024.pdf>, (2025年8月25日参照)
- Oakley, B. and Green, M. (2001) The Production of Olympic Champions: International Perspectives on Elite Sport Development System. *European Journal for Sport Management*, 8: pp. 83-105.
- 小野寺恵介 (2023) 3人制バスケットボールにおける世界最高峰の大会を体験するプロセスの事例：選手へのインタビューを通して, *体育学研究*, 68, pp. 361-375.
- Rewilak, J. (2021) The (non) determinants of Olympic success. *Journal of Sports Economics*, 22 (5): pp. 546-570.
- Sansone, P., Conte, D., Tessitore, A., Rampinini, E., and Ferioli, D. (2023) A Systematic Review on the Physical, Physiological, Perceptual, and Technical-Tactical Demands of Official 3x3 Basketball Games. *International Journal of Sports Physiology and Performance*, 18 (11): pp. 1233-1245.
- 佐々木瑛・金澤篤志・内山治樹 (2021) 3人制バスケットボール競技におけるチーム戦術のメカニズムに関する記述分析的研究, *バスケットボール研究*, 7, pp. 37-49.
- Yuzkovets, I., and Krasov, O. (2024) The “3x3 basketball” game main characteristics as a new type of activity for students. *Theory and Practice of Physical Culture and Sports*, 3 (1): pp. 58-64.